

NOMURA

2022年10月期 決算説明資料

のむら産業株式会社 証券コード 7131

目次

- I 会社概要・事業概要**
- II 強み・特徴**
- III 2022年10月期 決算概要**
- IV 中期経営計画（成長戦略）**
- V 2023年10月期 重点施策と業績予想**
- VI 株主還元**
- VII Appendix**

I 会社概要・事業概要

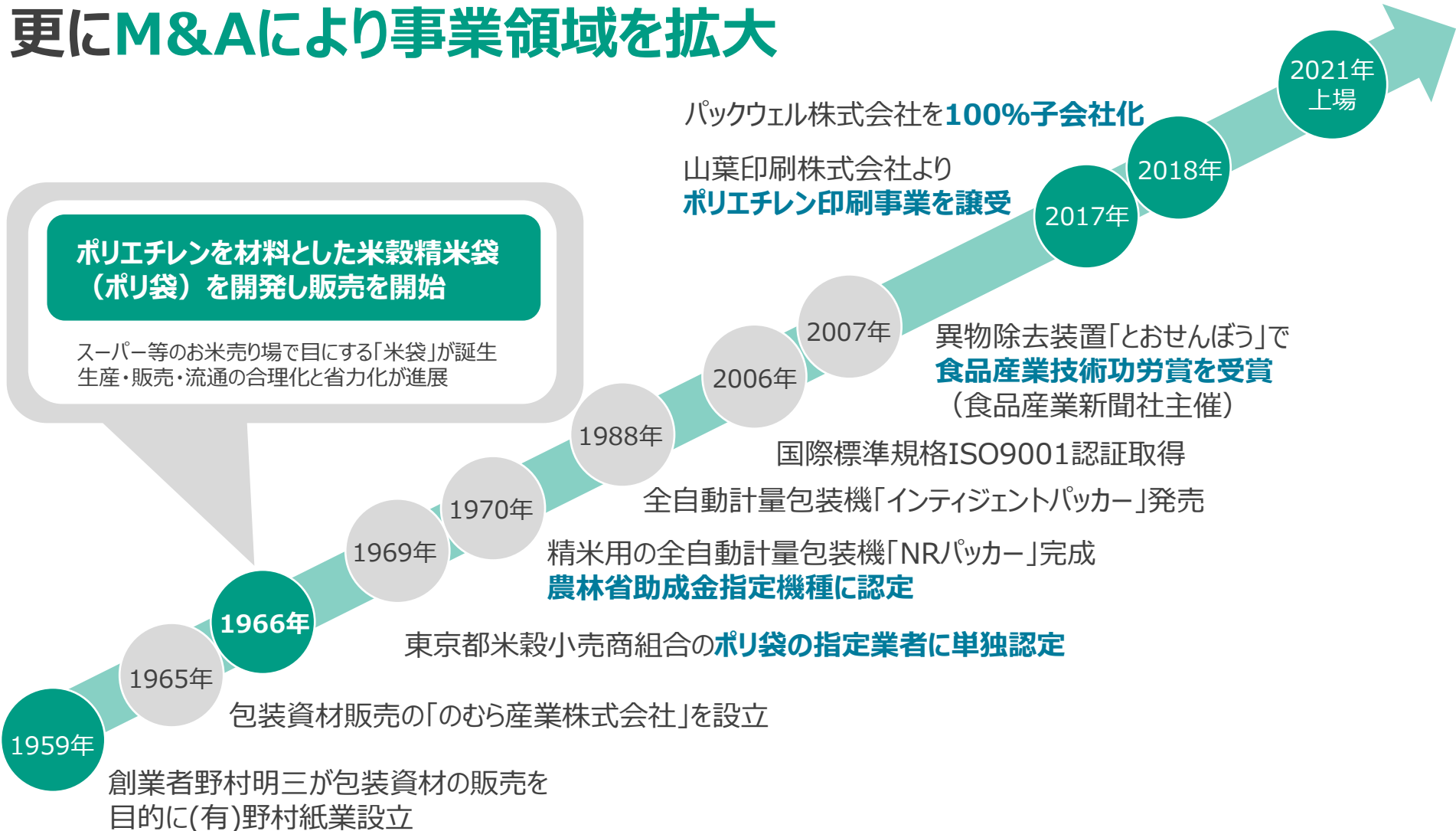
会社名	のむら産業株式会社
設立	1965年（昭和40年）11月
会社所在地	東京都東久留米市前沢5丁目32番23号
代表者	代表取締役社長 清川 悦男
資本金	80,000,000円
決算期	10月
発行済株式数	1,391,575株（自社株含む）
従業員数	108名（平均臨時雇用人員含む） ※22/10/31時点（連結）
連結子会社	バックウェル株式会社 山葉印刷株式会社
監査法人	EY新日本有限責任監査法人
事業内容	<包装資材部門> 米穀精米袋を中心とした食品及びその他の包装資材の企画・デザイン及び販売 <包装機械部門> 米穀用自動計量包装機を中心として計量包装機械の企画開発及び製造販売

経営理念

人に優しい新技術をモットーに、
常に使う人の身になっての
商品づくりに努め、
お取引先の皆様とのビジネスを通じて
社会に貢献していきます。



設立半世紀を超えた米穀包装資材・機械のパイオニア 更にM&Aにより事業領域を拡大



のむら産業グループは
米穀包装資材・機械をワンストップで
企画・販売する
米穀包装業界のトップランナー。



人々のライフスタイルの変化に対応し
「包む」をキーワードに事業領域を拡大中

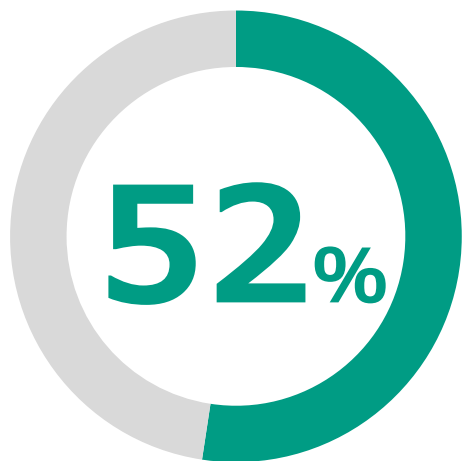


米穀包装における業界シェアNo.1

長年培った信頼と実績で高い取引継続率を実現

米穀包装機械

業界シェア※1



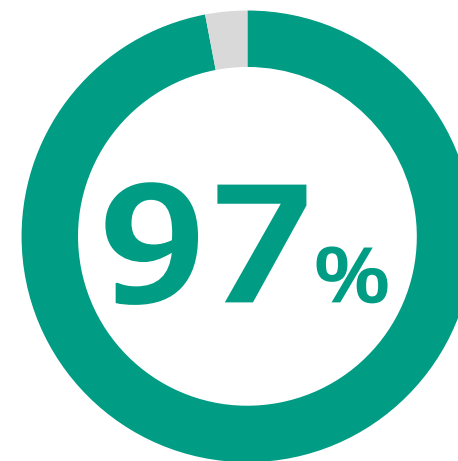
米穀包装資材

業界シェア※2



取引継続率

(対顧客)



※1.有価証券報告書等各種データより当社推定2020年データ

※2.農林水産省「米をめぐる関係資料」(2020年7月公表データ)に基づき当社推定

※3.中期的な継続率の判断材料として、2014年10月期の顧客が2019年10月期、2020年10月期に当社と取引があった顧客ベースで算出

当社グループはBtoBを中心とした2つのセグメントで構成

包装関連事業

(%:売上構成比)

物流梱包事業

85%

包装機械

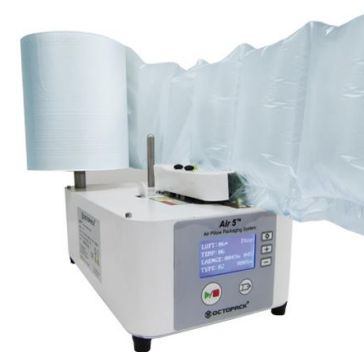
設計・製造、
販売・アフターサービス

包装資材

デザイン・印刷・販売

15%

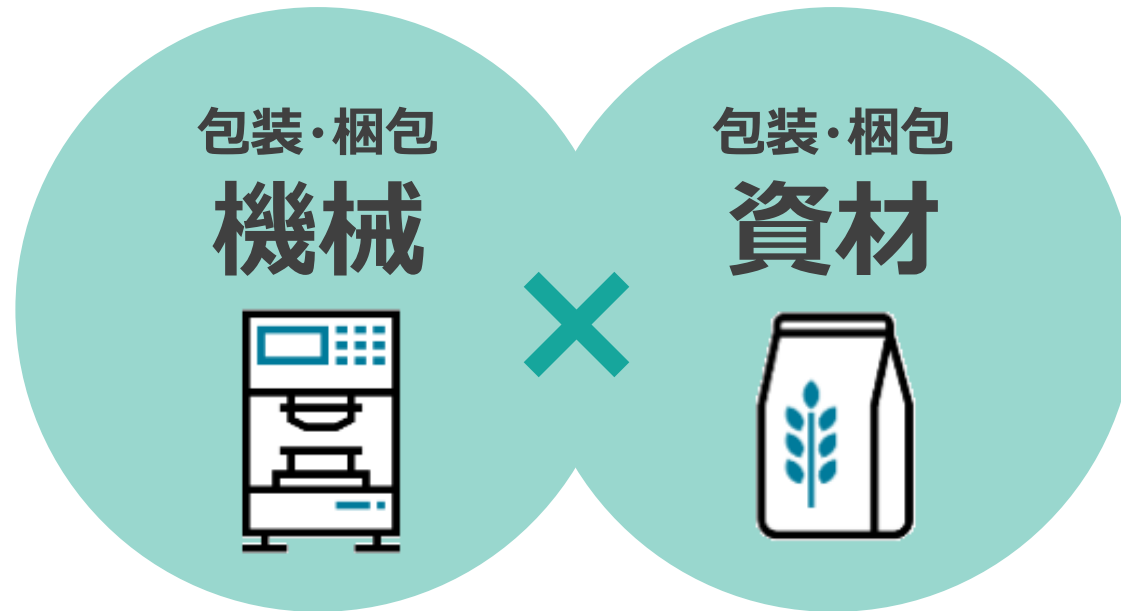
販売・
ソリューション



II 強み・特徴

米穀包装資材・機械のパイオニア

米穀用包装資材と包装機械の両方を手掛けニッチ領域で事業を展開



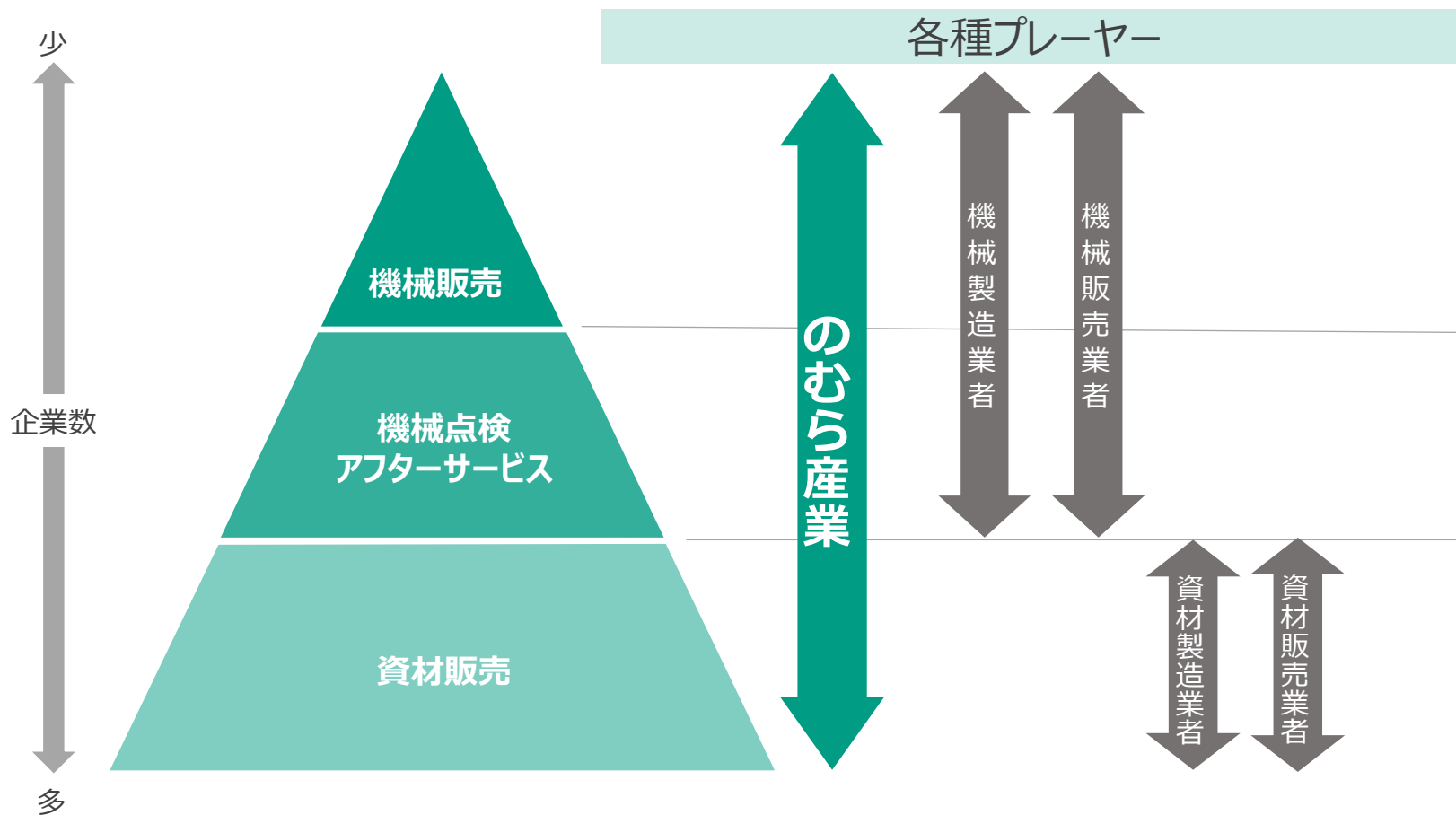
経営資源

営業力・開発力

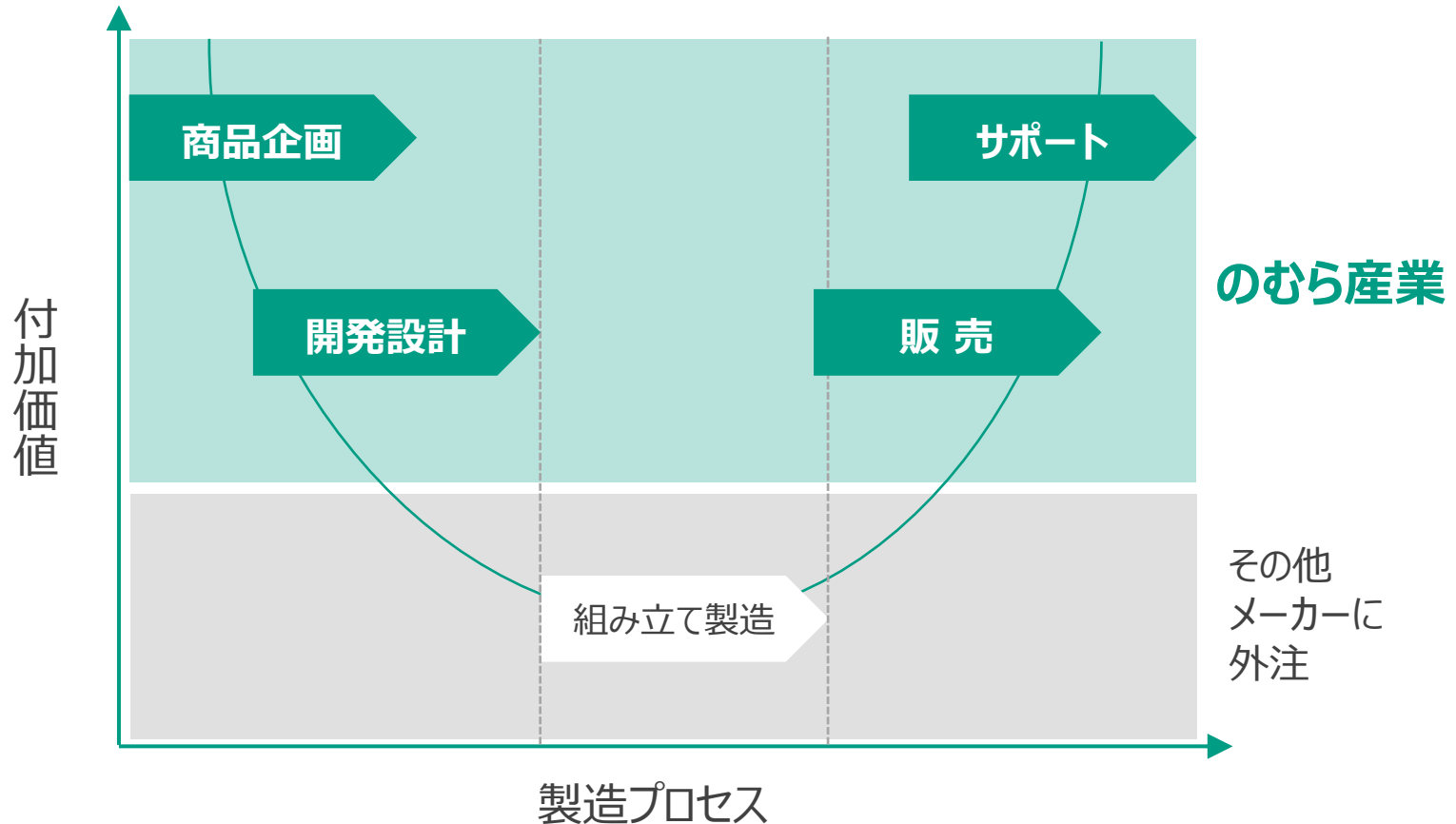
経営資源

企画力・デザイン力・ソリューション力

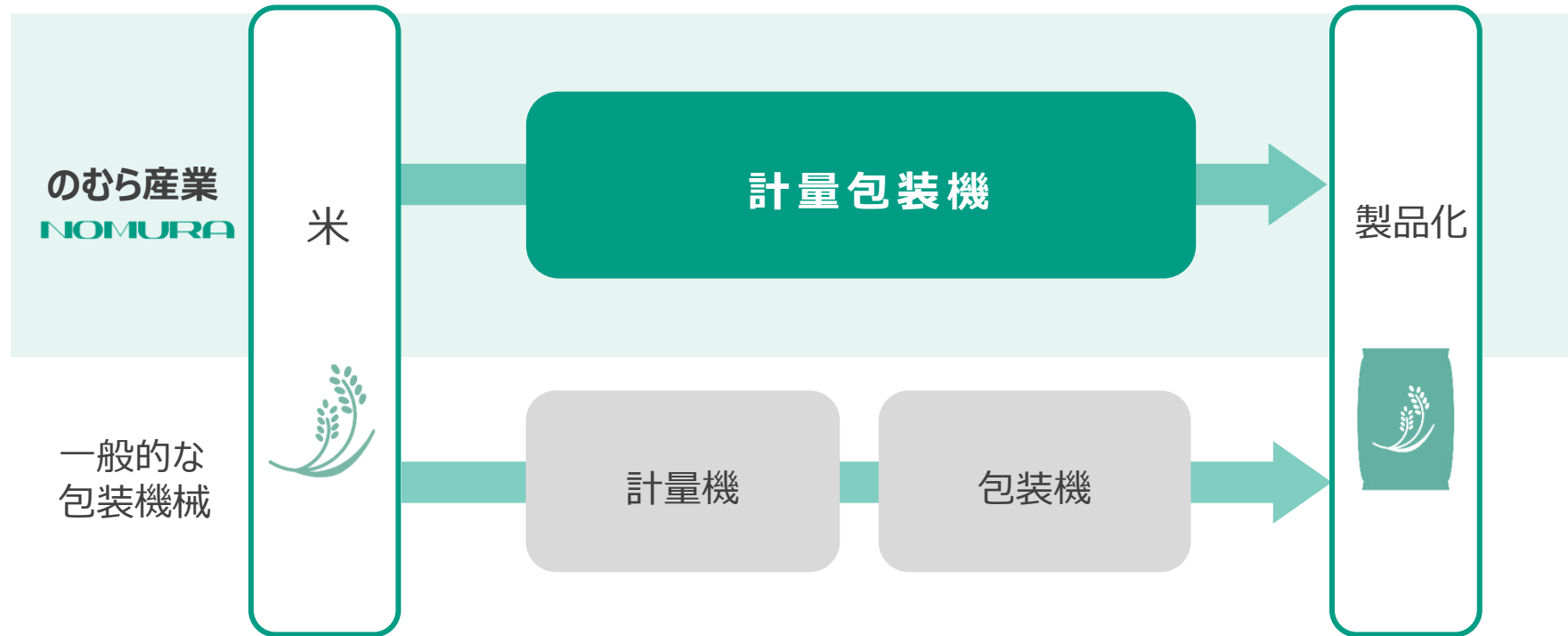
機械販売から資材販売の川上から川下まで 当社はこれらの事業をワンストップで対応し、ポジショニングを確立



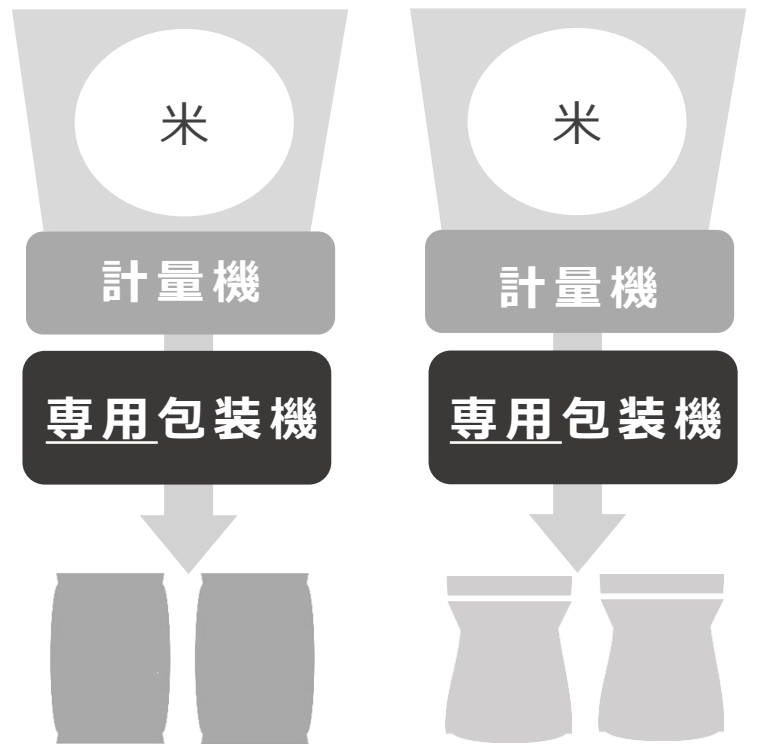
顧客のニーズを捉え開発・設計の上流工程に経営リソースを集中し、 付加価値の高い経営基盤を構築



計量機と包装機を一体化。ワンストップでの保守・メンテナンスが可能。
機械を制御する部分の統一で、設置が容易なため、
省スペース化やコストダウンが図れる

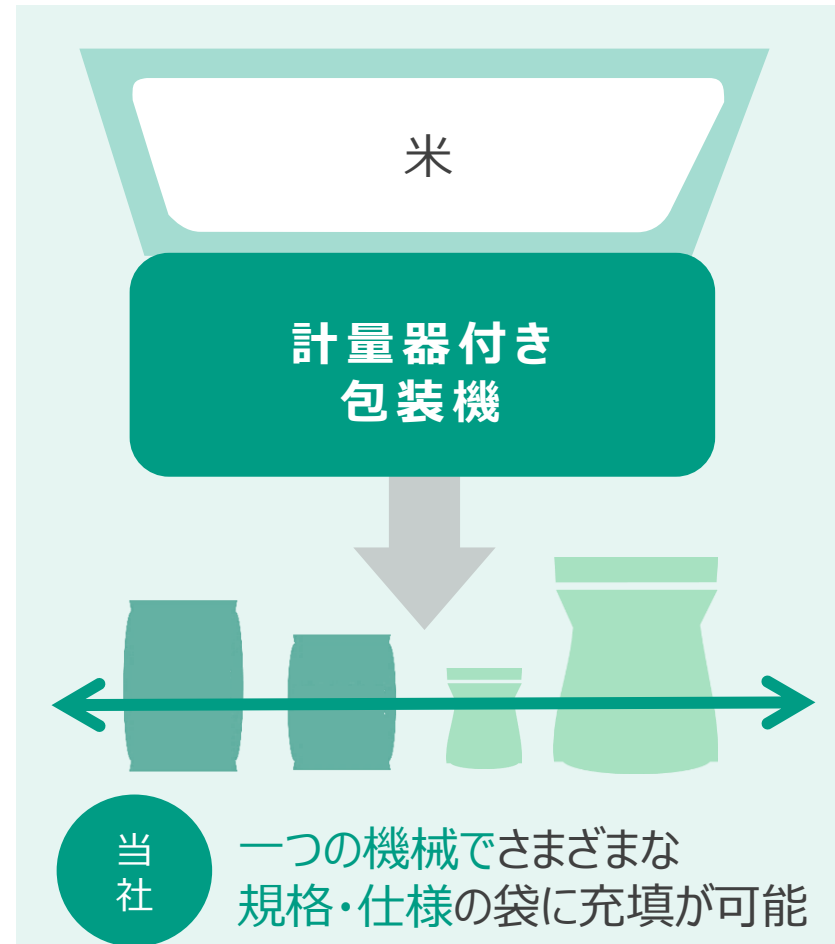


当社の計量機付き包装機では、一つの機械でさまざまな規格・仕様の商品の包装が可能
規格と仕様ごとに個別に機械を揃える必要がないため、取引先の投資効率化が図られる



専用包装機によって
各規格や仕様ごとに包装を行う

他社



当社

一つの機械でさまざまな
規格・仕様の袋に充填が可能

設立以来積み上げてきた米穀業界を中心とした約2,700社の顧客基盤



大手精米卸販売会社



米穀製品専門の商社



農業協同組合

流通関連



量販店



小売・スーパー



コンビニ



デパート

……など

外食関連

大手外食チェーン



牛丼



とんかつ



寿司



カレー



ファミリーレストラン

EC関連

大手外資系通販会社

OA機器専門商社

運輸系印刷会社

工具系通販会社

……など



Ⅲ 2022年10月期 決算概要

売上高

5,458百万円

前期比：+7.7%

営業利益

375百万円

前期比：+18.7%

経常利益

370百万円

前期比：+14.1%

大幅な増収増益を達成。期初計画に対しても大きく上振れ

2事業ともに、計画以上の売上を達成。増収効果に加え、原材料、原価高騰の影響を適正な価格転嫁と徹底したコスト削減でカバーし、大幅増益。

主力の包装関連事業：大幅増収を達成。

包装資材 通年で家庭用が堅調に推移したことに加え、ウィズコロナの浸透による外食産業での需要を的確に捉え、業務用が回復。

包装機械 当社製品の機能性を訴求した営業が功を奏し、全体業績に貢献。

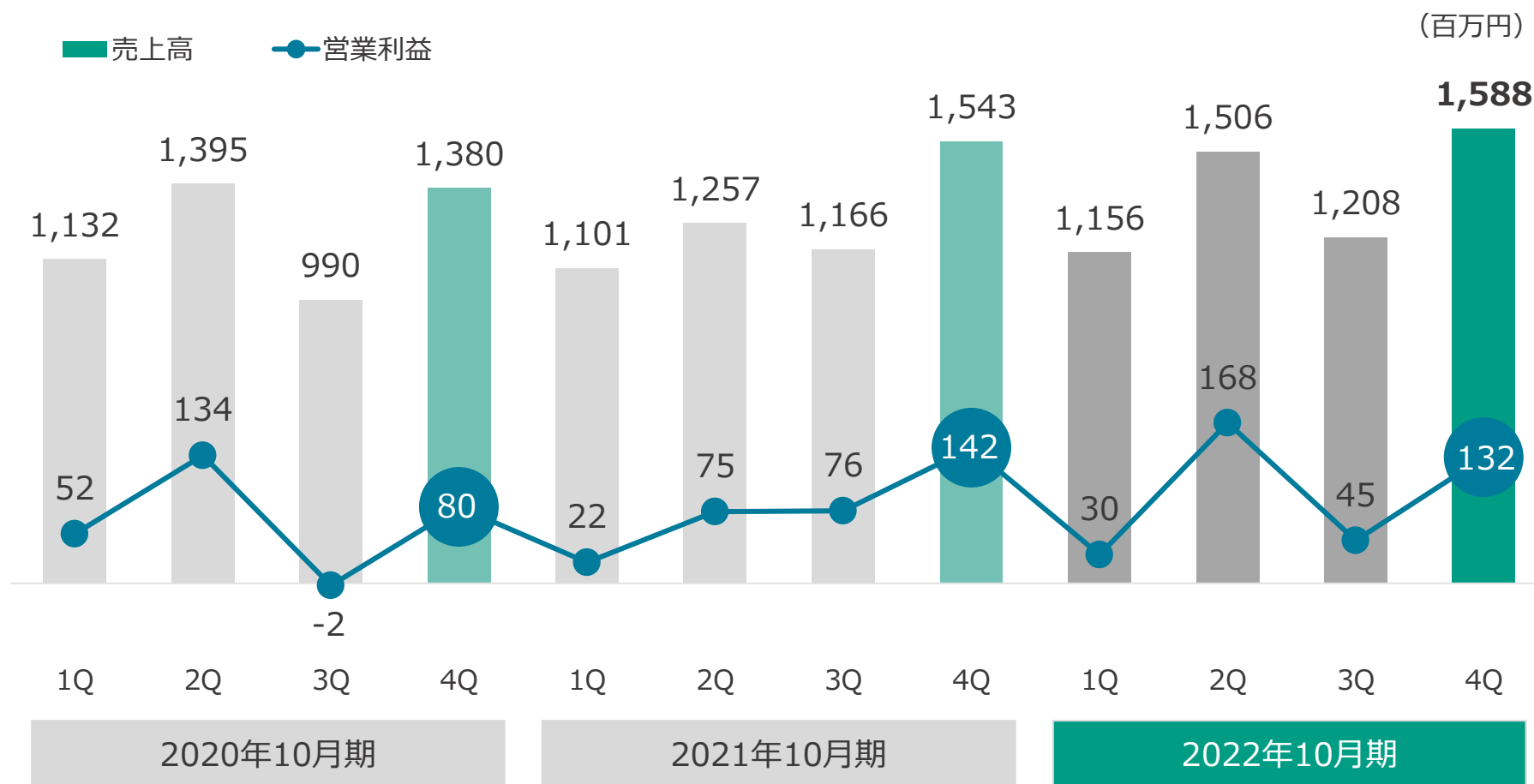
物流梱包事業：大幅増収を達成。

EC関連物流の市場拡大、製造業等の物流梱包関連資材のコロナ禍からの回復により好調に推移。

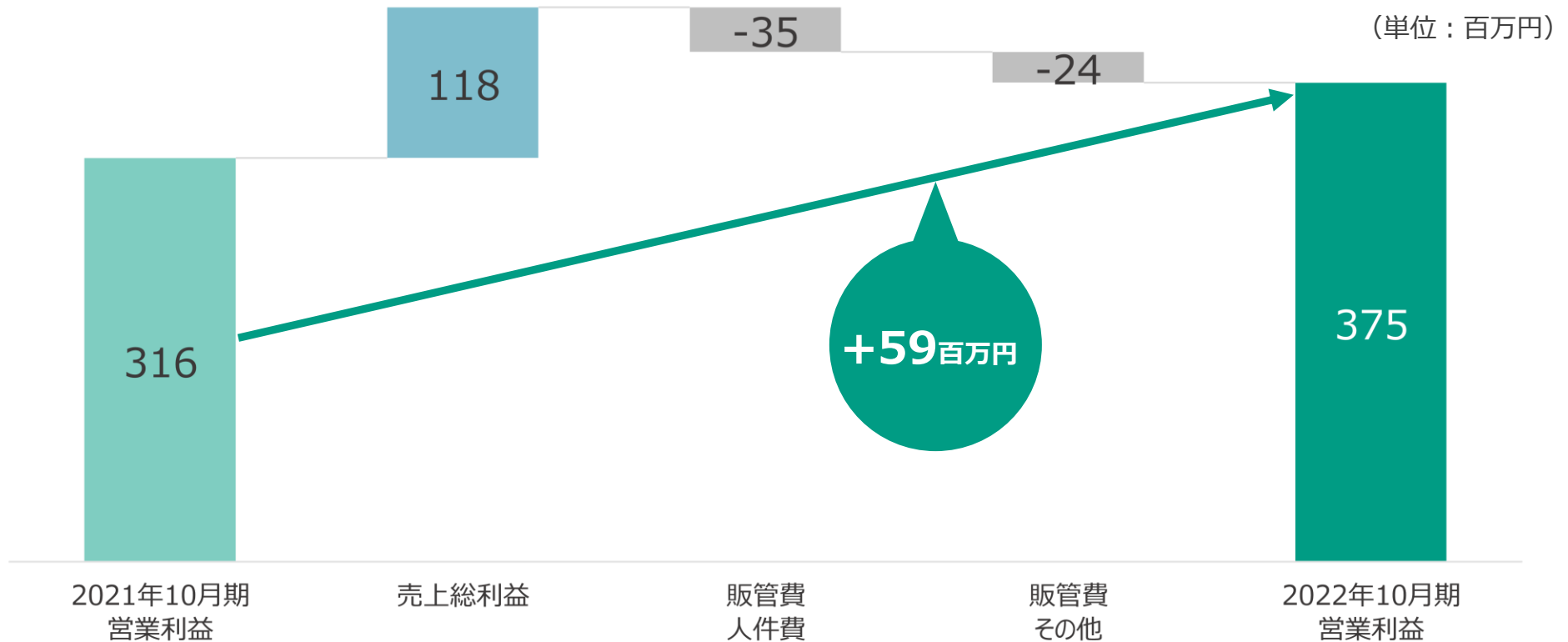
原材料費高騰の価格転嫁による値上げ実施が奏功し増収増益で着地

単位：百万円	21/10期 決算		22/10期 決算				前期比	
	実績	利益率	実績	利益率	期初計画	達成率	増減額	増減率
売上高	5,068	—	5,458	—	5,260	103.8%	+390	7.7%
売上総利益	1,269	25.0%	1,388	25.4%	1,384	100.3%	+118	9.4%
営業利益	316	6.2%	375	6.9%	334	112.3%	+59	18.7%
経常利益	324	6.4%	370	6.8%	331	111.8%	+45	14.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	205	4.1%	239	4.4%	206	116.0%	+34	16.8%

米の収穫時期に需要が増加する傾向があることから、 売上高および営業利益の比重が高くなる第4四半期も堅調に確保



増収効果と原価低減により売上総利益率がUP
 営業利益は前年同期比で +59百万円の増益



(単位：百万円)		21/10期	22/10期 決算		前期比	
		実績	実績	利益率	増減額	増減率
売上高	包装関連事業	4,322	4,651	-	+329	7.6%
	物流梱包事業	749	806	-	+57	7.6%
	調整額	▲3	0	-	+3	▲115.1%
	合計	5,068	5,458	-	+390	7.7%
営業利益	包装関連事業	309	352	7.6%	+42	13.8%
	物流梱包事業	6	22	2.7%	+16	245.7%
	合計	316	375	6.9%	+59	18.7%

※セグメント別の営業利益は、のれん償却費及び販管費等の配賦等を調整したセグメント利益を記載しております。

(単位：百万円)	21/10期	22/10期	増減額	主な増減要因
総資産	3,468	3,633	+164	現預金180百万円、仕掛品115百万円増加
負債	2,212	2,241	+28	仕入債務126百万円、未払法人税22百万円増加
純資産	1,256	1,392	+136	主に親会社株主に帰属する当期純利益の計上

(単位：百万円)	21/10期	22/10期	増減額	主な増減要因	
営業CF	424	454	+29	税金等調整前当期純利益	370
				売上債権の減少	122
				仕入債務の増加	126
投資CF	1	▲2	▲3	無形固定資産の取得	▲2
財務CF	▲203	▲271	▲68	長期借入金の返済	▲128
				自己株式の取得	▲67
現金及び現金同等物の 期末残高	863	1,043	+180		

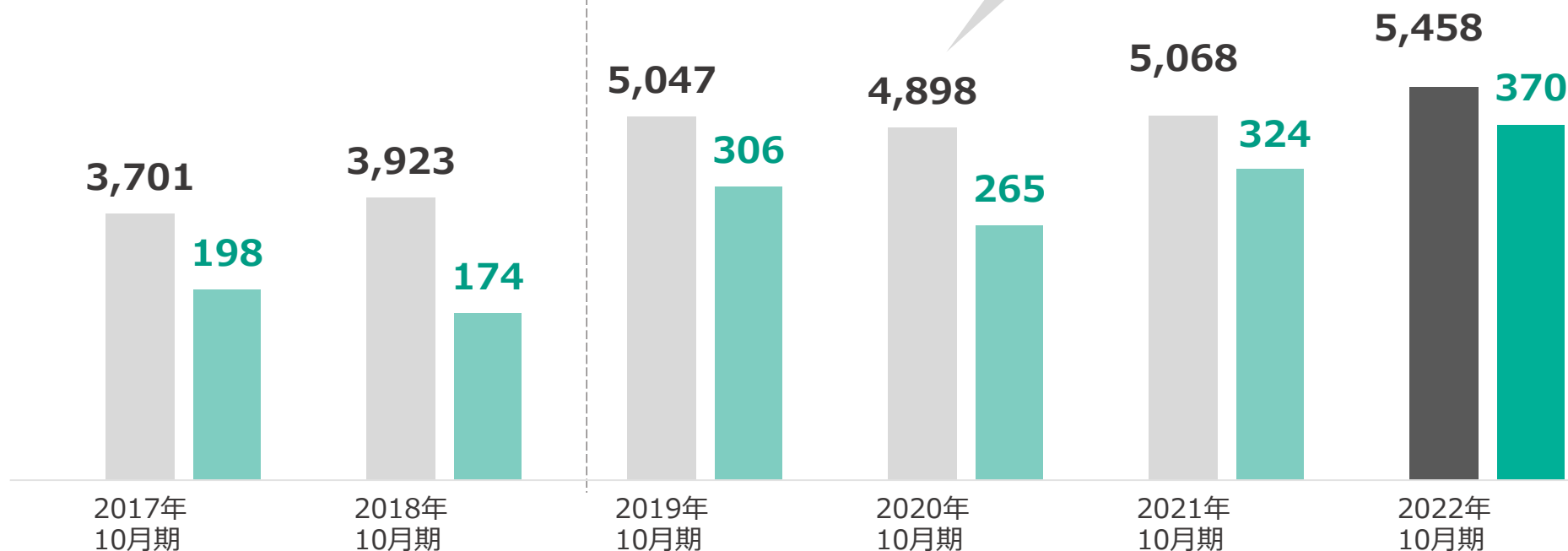
22/10期の通期予想を達成し コロナ禍前の業績と比べても順調に成長

■ 売上高 ■ 経常利益

(百万円)

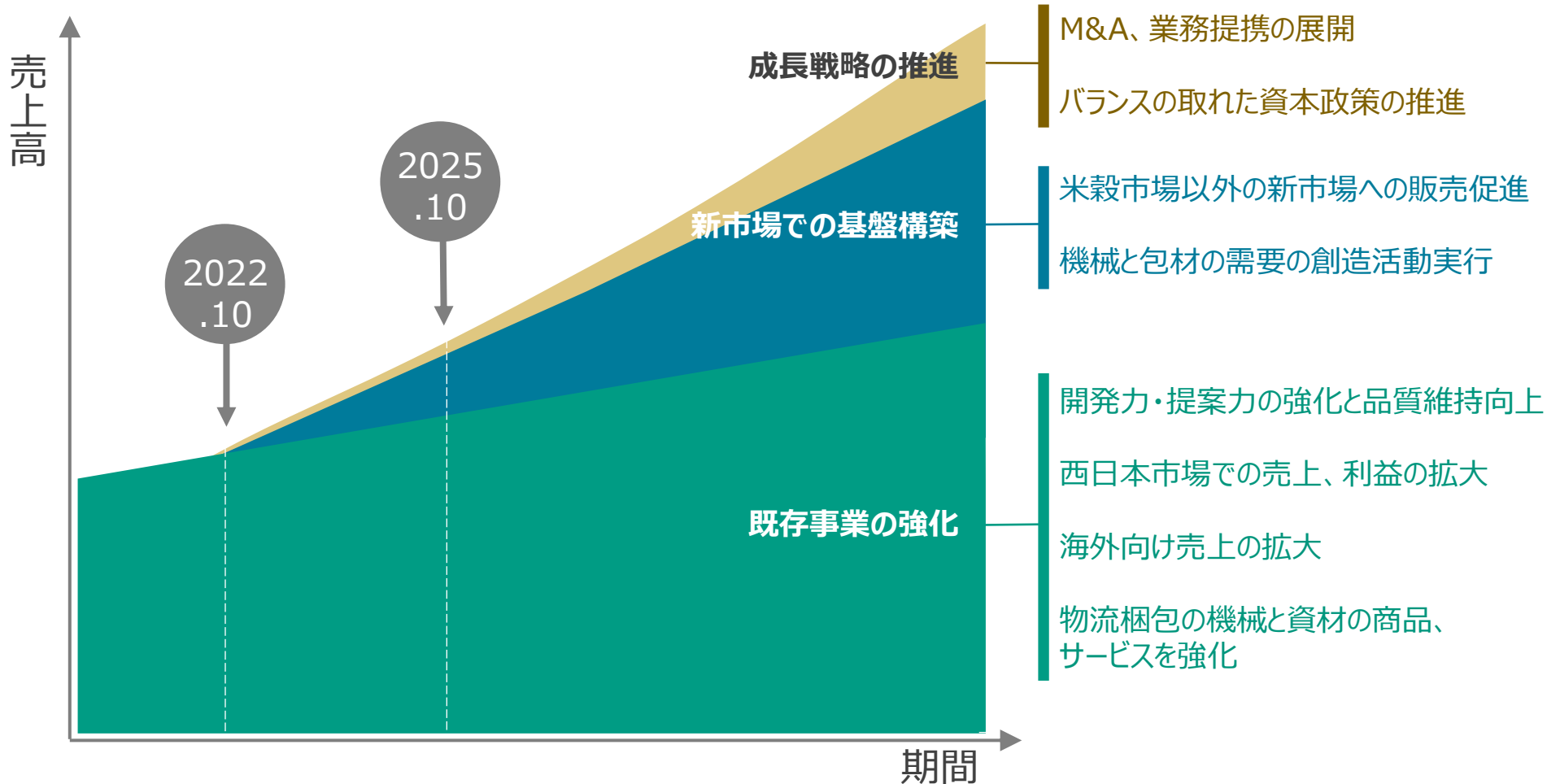
← 単体 → 連結 →

コロナ禍において
営業活動等の制限

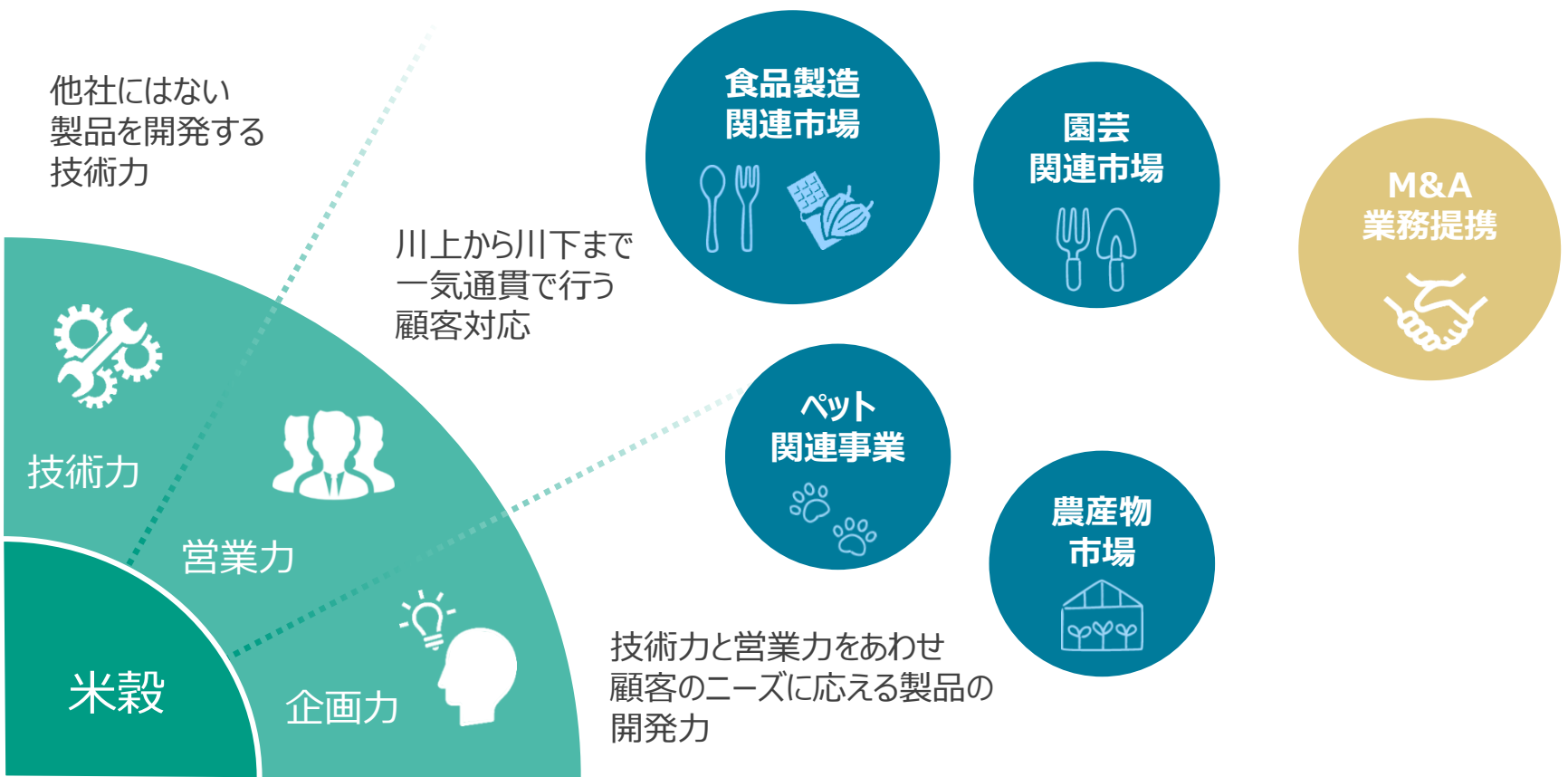


IV 中期経営計画（成長戦略）

既存事業のみならず、新市場分野の開拓を行い持続的な成長を目指す



既存領域の深耕と新領域の開拓で中長期安定成長を目指す



他社にはない
製品を開発する
技術力

川上から川下まで
一気通貫で行う
顧客対応

食品製造
関連市場

園芸
関連市場

M&A
業務提携

ペット
関連事業

農産物
市場

技術力

営業力

米穀

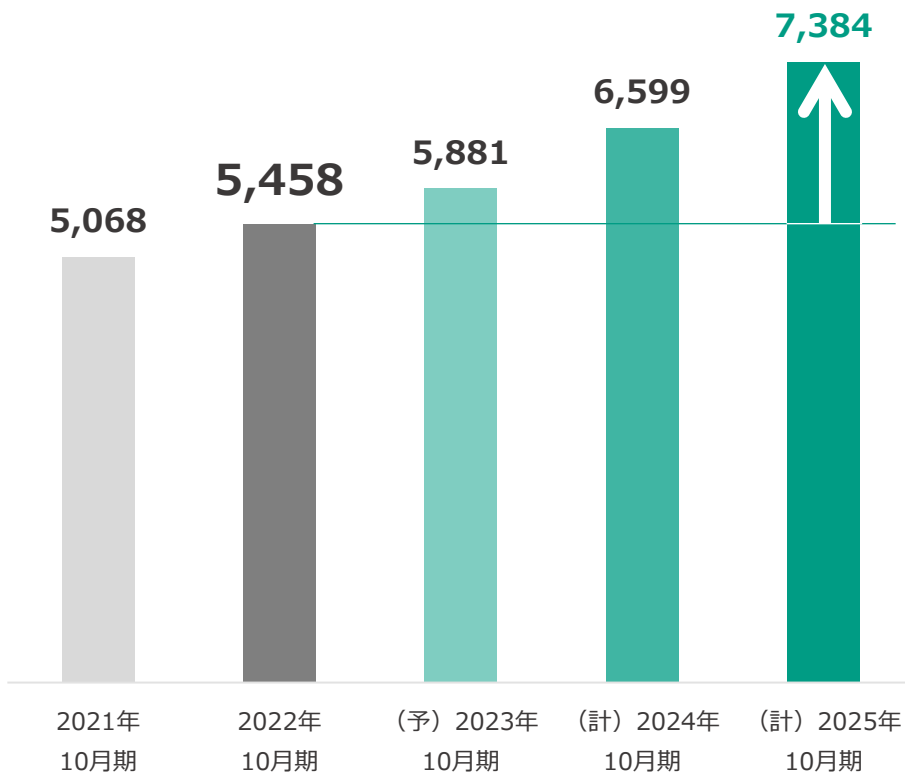
企画力

技術力と営業力をあわせ
顧客のニーズに応える製品の
開発力

米穀包装業界を牽引するとともに、新領域へ進出し、
今後3年間で1.2倍～1.4倍の企業規模、収益力に成長

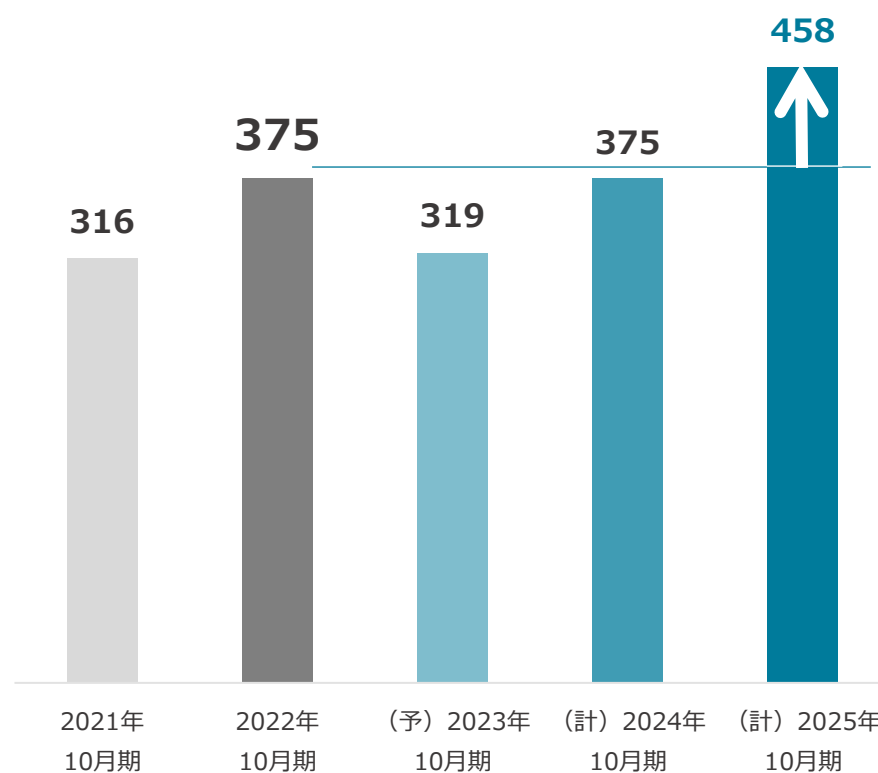
売上高 (百万円)

2022年10月期比 **約1.4倍の73.8億円**

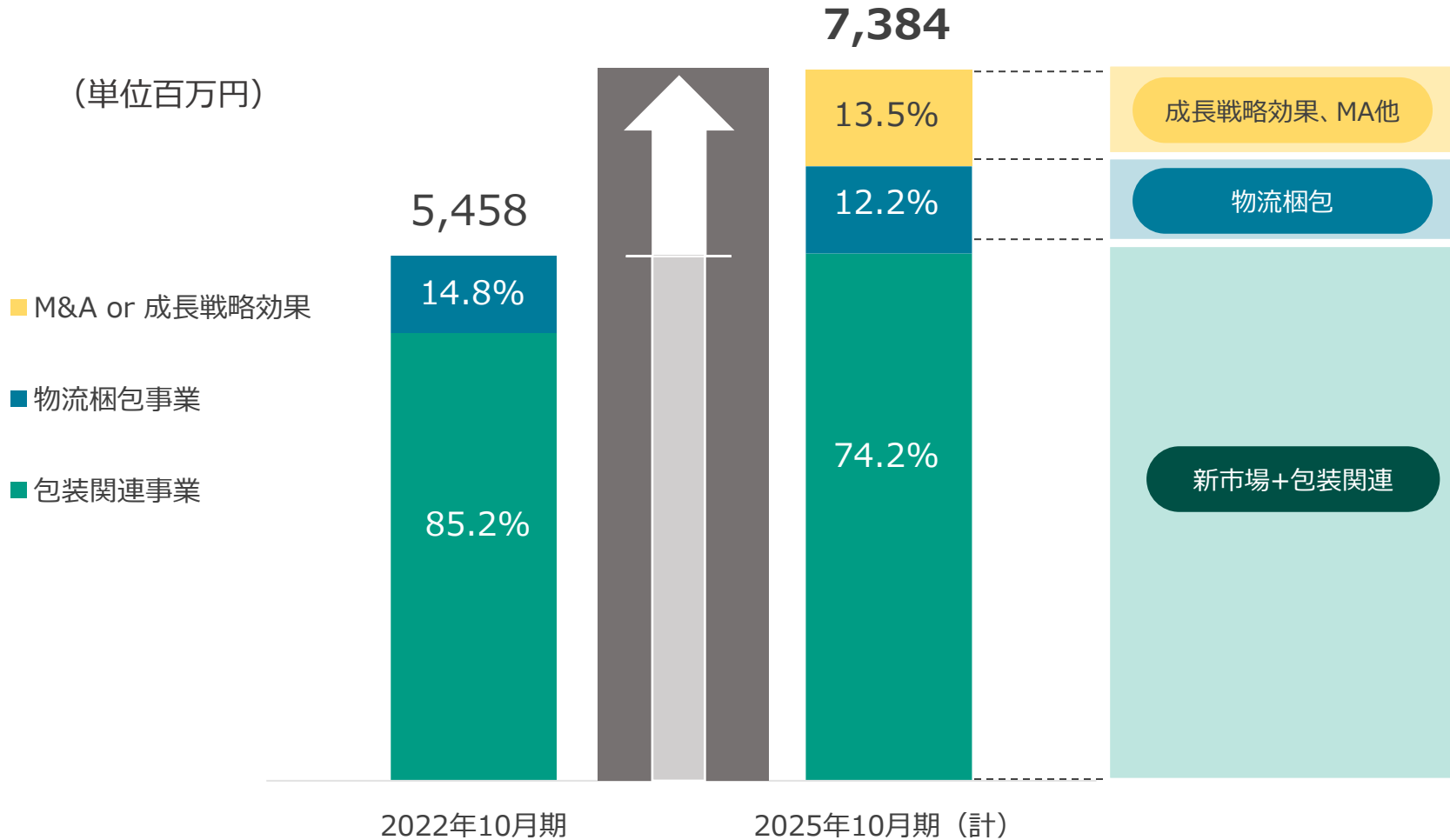


営業利益 (百万円)

2022年10月期比 **約1.2倍の4.5億円**



包装関連事業、梱包物流事業の着実な成長。 強みを生かした成長戦略による基盤を構築。



※数値は、連結消去前

1. 既存事業の強化

- (1) 商品・サービスの**開発力・提案力の強化と品質維持向上**に努めお客様や消費者のニーズを捉える。
- (2) 米穀用自動計量包装機の**国内トップとしてさらにシェアを拡大**。
- (3) **海外向け売上の拡大**：アジアにおける現地ニーズに合った機械製品の開発と販売体制を構築。
- (4) **西日本市場での売上、利益の拡大**：西日本市場での販売体制と仕入拠点の強化
- (5) **物流梱包の機械と資材の商品、サービスを強化**。**サステナブルな社会の実現に寄与し、事業規模を拡大**。

2. 新市場の基盤構築

- (1) 当社が得意なチューブロール式の包装形態による、機械と包材の需要の創造活動を実行。
* 食品やペット関連、農産物・園芸関連等の米穀市場以外の新市場への販売を促進。
- (2) 当社が培ったナレッジと進化するIT技術を活かし、新たなビジネスモデルに挑戦。
- (3) 新市場での収益促進のため、資材・設備・サービスなどの取り扱い商材の拡充・開発を図る。
- (4) 新市場での収益促進のため、デザイン・企画・開発部門の強化を図る。

3. 成長戦略の推進

- (1) 既存事業の強化、西日本市場および新市場での事業拡大に結び付く企業との
M&Aや業務提携を積極的に展開しグループ連結収益の拡大と企業価値向上を目指す。
- (2) 「資本効率の向上」「成長に向けた戦略的投資」「財務の健全性」「安定的な株主・役職員還元」について
バランスの取れた資本政策を推進。

市場の大きなタイ向けの取り組みに着手

これまでの主な取り組み

顧客販売網

タイで独占的
販売契約の締結

海外対応

国内商社による
海外窓口の整備

開発体制

工場所有企業
との関係性強化

現地生産

現地生産が可能
な企業との
連携体制

海外展開への今後の取り組み

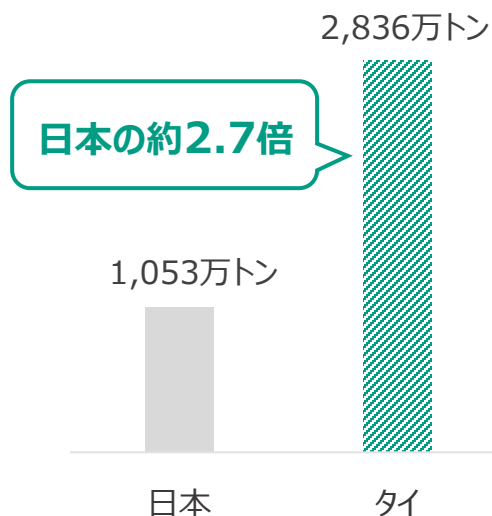
✓タイを中心とした東南アジア諸国への販売促進

⇒現地需要の確認、
販売ターゲットの選定

✓海外製品との価格差解消

⇒現地ニーズに合った
機械の開発と
生産可能な企業等
との連携

【米の生産量】



※出所：国連 FAOSTAT2019年の値
生産量は「もみ」の重さ。日本の生産量の統計は玄米の重さで表されていますが、国連の統計では「もみ」の重さが使われています。

営業エリアが東日本に集中しているため、シナジー効果の高い企業との業務提携やM&Aを視野に西日本エリアの商圈拡大を推し進める

西日本エリア 商圈拡大

西日本エリアでの
シナジー効果の高い企業との業務提携

当社及び業務提携先の製商品を
西日本で販売シェアを拡大

東日本エリア 既存エリアのシェア拡大

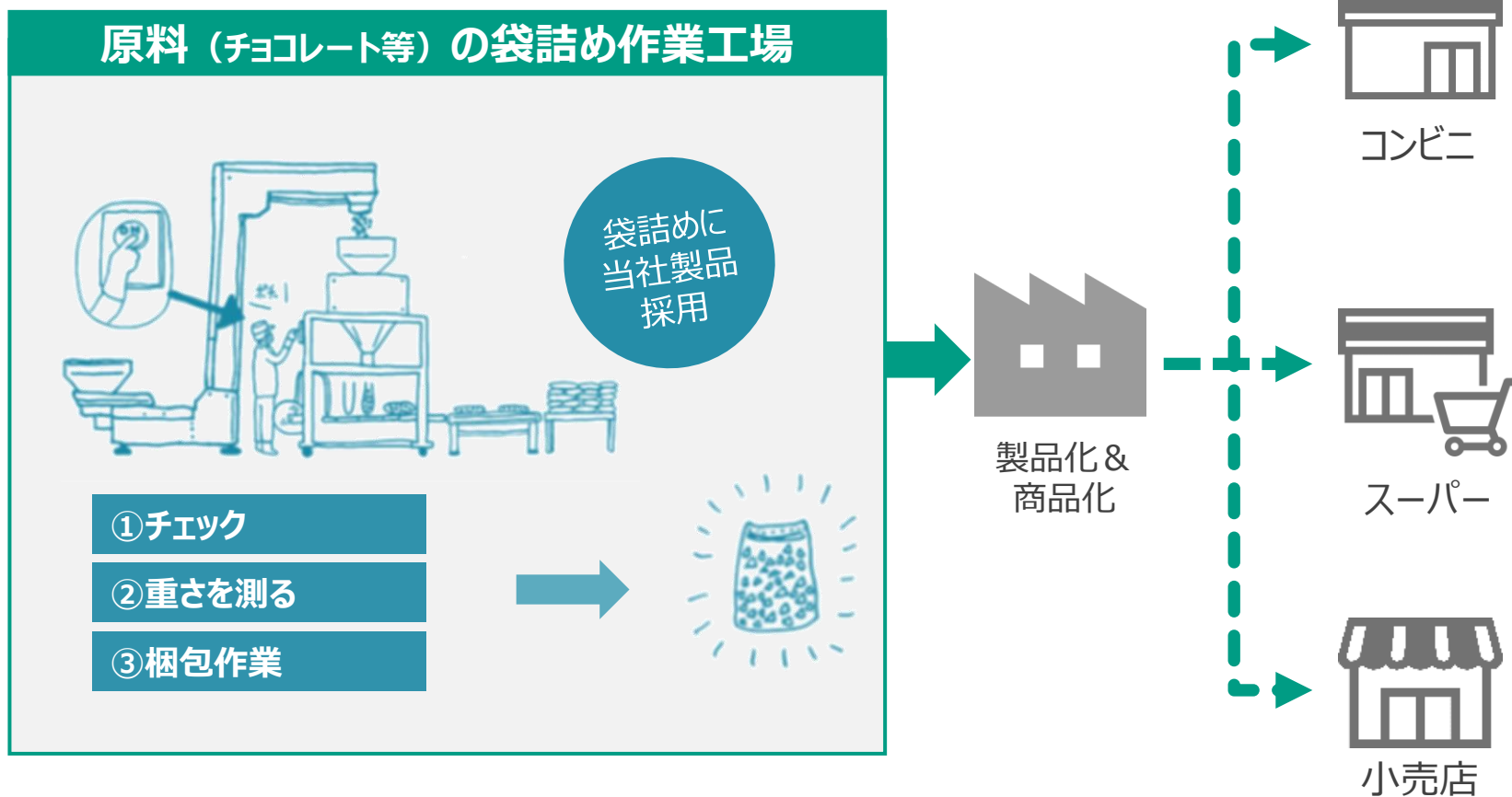
東日本エリアの
包装関連市場の市場規模の
うち当社シェアは3割強※

機械×包装の一体化のアドバ
ンテージを活かし、営業力強
化でシェア拡大を目指す

※当社推定値

粒状物包装を長年手掛けてきたノウハウを米穀以外の新市場に横展開 チョコレート等の原料を工場間輸送するため大手食品工場が当社製品を採用

業務効率化、省力化に寄与



環境へ配慮した製品の開発を積極的に行っています。

バイオマス素材を30%使用した米袋

バイオマス素材とは生物由来の持続的に生産可能な有機性資源のことであり、**燃烧した際に大気中のCO2を増加させず、温室効果ガスの削減につながります。**

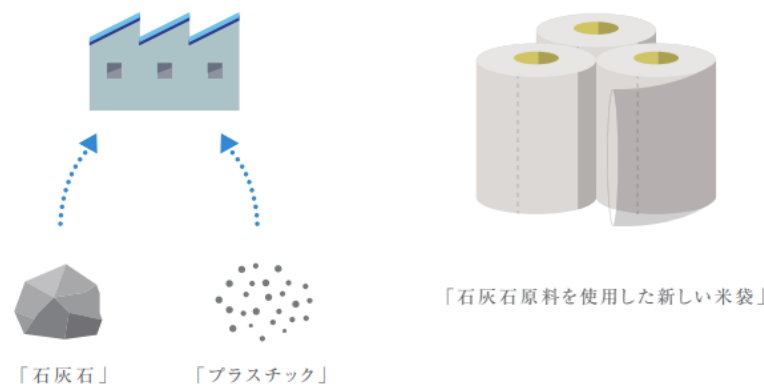


★JAグループでは環境に配慮した新たな取り組みとして温室効果ガス削減につながる当社米袋を導入していただいております。

プラスチック削減製品

PLASTONE

プラスチックに炭酸カルシウムなど無機物を約30%配合し作られた、紙でもバイオでもない、**石灰石原料を使用した新しい米袋を開発。**



お客様のニーズをとらえた様々な商品を開発

機能性に優れた商材は、高単価で新規のお客様にも訴求効果が高い



業界初!
チャック付サイドガゼットロール

- さまざまな規格（サイズ・材質）の袋の型替えが簡単
- サイドガゼットにより自立が可能
- 再封が可能で衛生的に保存



オリジナル米袋

設計からデザイン、製造
までトータルプロデュース

成長するEC市場を背景に売上拡大を目指す

海外の優れた
物流梱包機械・資材の発掘

梱包出荷ニーズに
ワンストップで対応

充実したアフターケア

ソリューションサービスの推進

販売後も顧客と接点を持つことで、顧客の様々なニーズ
(省スペース化、作業効率を上げたいなど) に対応

梱包荷造り機械・資材の拡販

EC
関連会社

紙素材を通じて「脱プラスチック」を推進

紙緩衝材自動製造機



1層クラフト紙から
3次元クッションを製造



ガムテープ繰出し機



重ね貼りやリサイクル
可能なガムテープ



自動ガムテープ繰出し機

V 2023年10月期 重点施策と業績予想

下記の取り組みを継続し、持続的な企業価値の向上を図る

包装関連事業（包材）

- 低シェアターゲット顧客に対する拡販による既存顧客の深耕
- 機械設置未取引先販促と生産者の開拓による新規顧客開拓
- 原価改善、仕入れ先追加、製品品質の向上による収益基盤の構築と顧客満足度の向上
- 西日本市場拡販による全国展開卸の取引拡大

包装関連事業（機械）

- 提案営業の推進による新規需要への販促
- 鮮度保持関連機器、新型パッカーの拡販
- 製造原価改善および仕入強化による売上原価改善

物流梱包事業

- 生産効率の向上および仕入強化による原価低減
- 紙緩衝材、エア緩衝材、ガムテープ商材など販売戦略強化

新市場

- ロールチューブ式包装機需要の展示会、web等による新たなニーズの掘り起こしによる開拓
- バイオマス関連機器、農業市場の開拓

包装関連事業（包材）

売上目標 3,261百万円
前期比 +274百万円

包装関連事業（機械）

売上目標 1,500百万円
前期比 +48百万円

物流梱包事業

売上目標 820百万円
前期比 +13百万円

新市場

売上目標 300百万円
前期比 +86百万円

為替の影響で輸入コストが増大するため減益を見込むものの、
23/10期は引き続き好調な売れ行きで増収の見通し

(単位：百万円)	22/10期 (実績)	利益率	23/10期 (予想)	利益率	前期比	
					増減額	増減率
売上高	5,458	—	5,881	—	+422	7.7%
売上総利益	1,388	25.4%	1,444	24.6%	+56	4.1%
営業利益	375	6.9%	319	5.4%	▲56	▲14.9%
経常利益	370	6.8%	318	5.4%	▲52	▲14.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	239	4.4%	199	3.4%	▲40	▲16.9%
1株当たり当期純利益 (EPS.単位:円)	175.42	—	150.83	—	▲24.59	▲14.0%

(単位：百万円)		22/10期	23/10期	前期比		概要
		実績	見通し	増減額	増減率	
売上高	包装関連事業	4,651	5,061	409	+8.8%	
	物流梱包事業	806	820	13	+1.7%	
	調整額	0	0	▲0	-	
	合計	5,458	5,881	422	+7.7%	
営業利益	包装関連事業	352	334	▲18	▲5.3%	
	物流梱包事業	22	▲14	▲37	▲162.7%	円安の影響を受けることが予想され、のれん償却費の回収まで至らず影響損失のなる見込み
	合計	375	319	▲56	▲14.9%	

※セグメント別の営業利益は、のれん償却費及び販管費等の配賦等を調整したセグメント利益を記載しております。

VI 株主還元

1株あたり年間配当金

期末配当金

期初の37円計画から

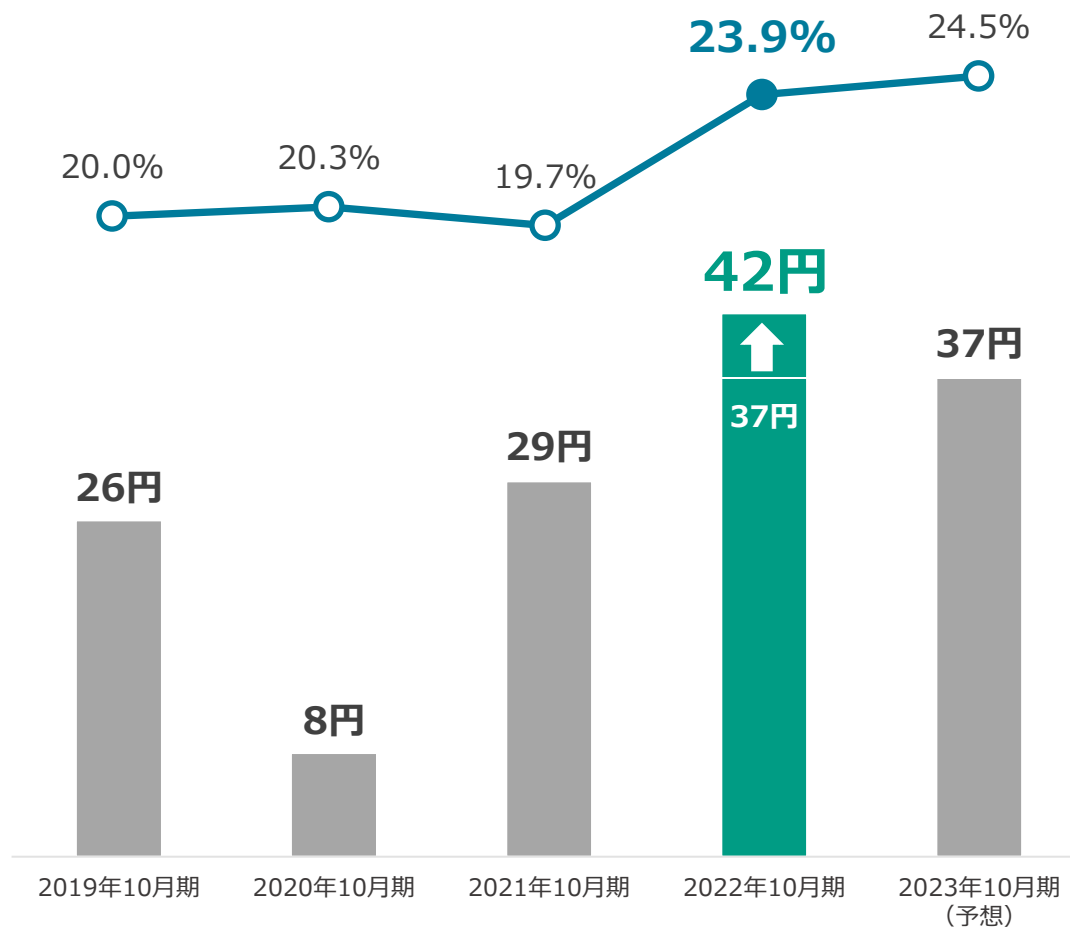
5円増額し42円

基本方針

事業拡大に必要な内部留保との
バランスを図りながら安定的かつ
継続的な配当を実施

連結配当性向目標

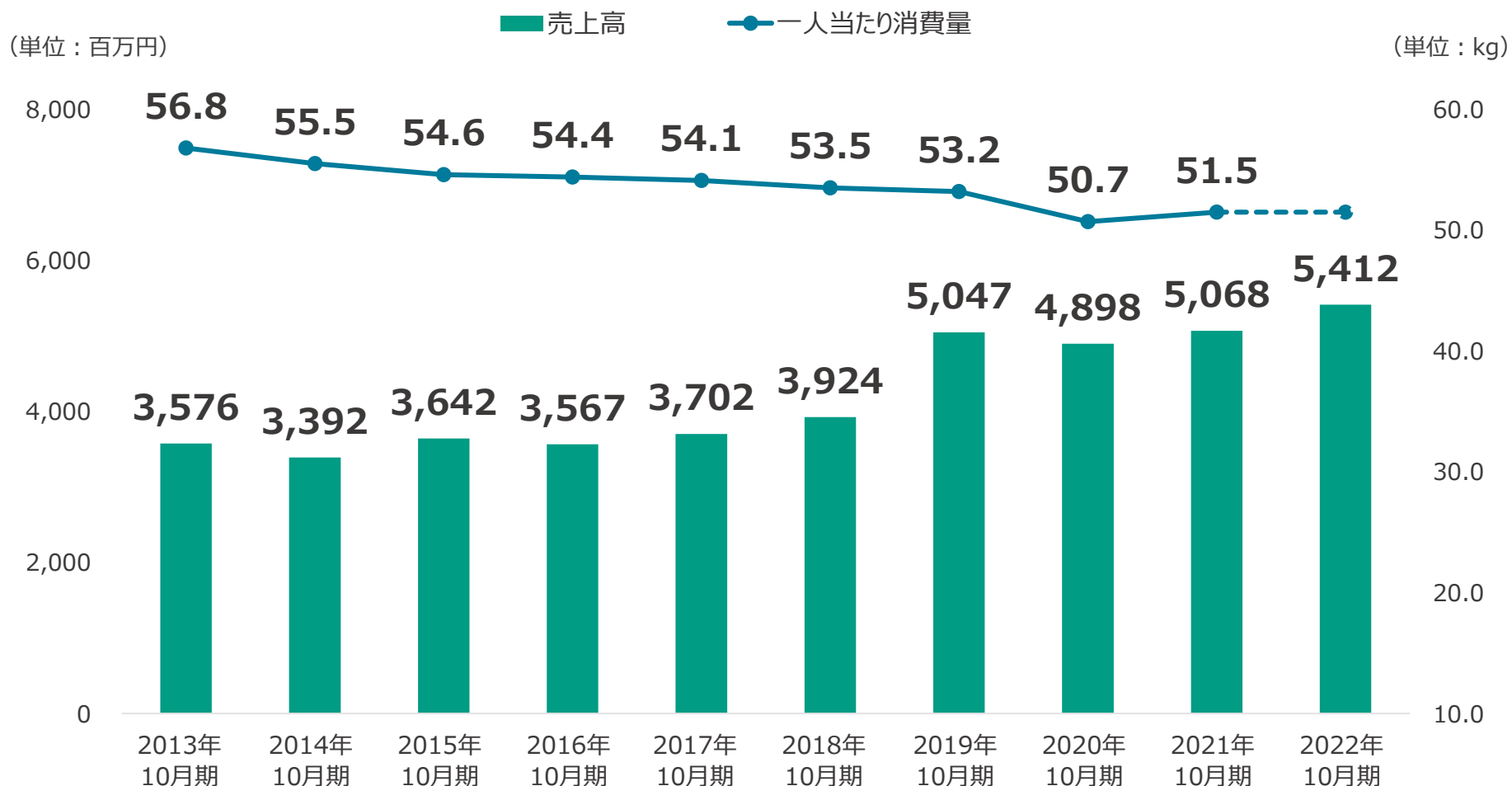
期末配当金 **25%程度**



※2020年8月12日付で普通株式1株につき25株の割合で株式分割を行っており、1株当たりの年間配当金につきましては当該株式分割後の配当額を記載しております。

Ⅶ Appendix

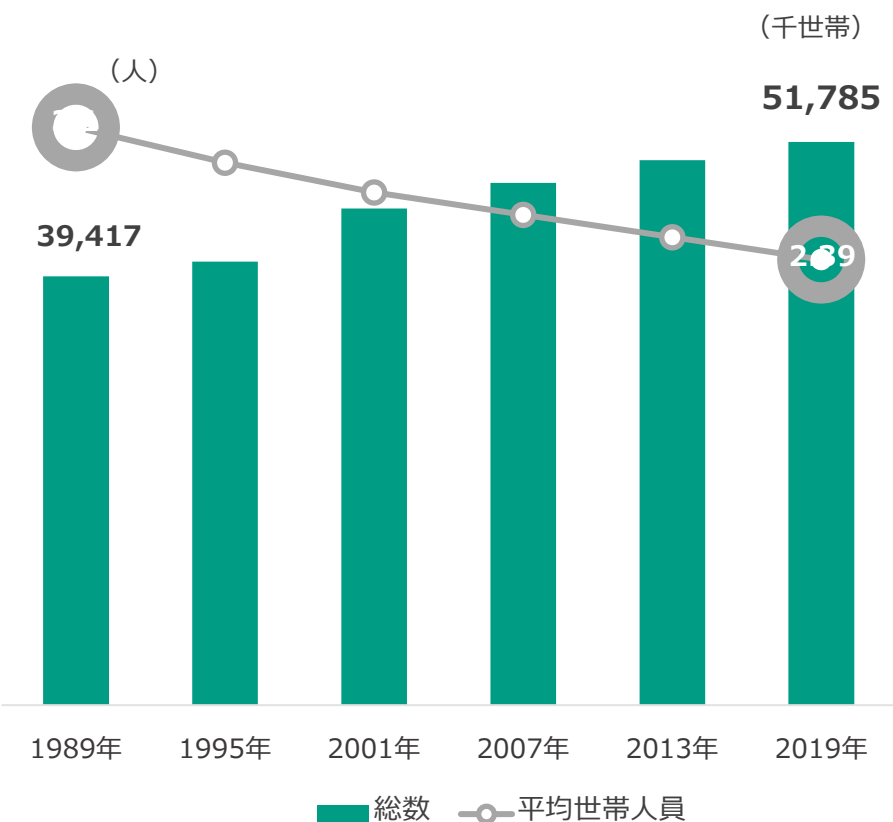
米需要の増減に関係なく、安定的に収益を確保



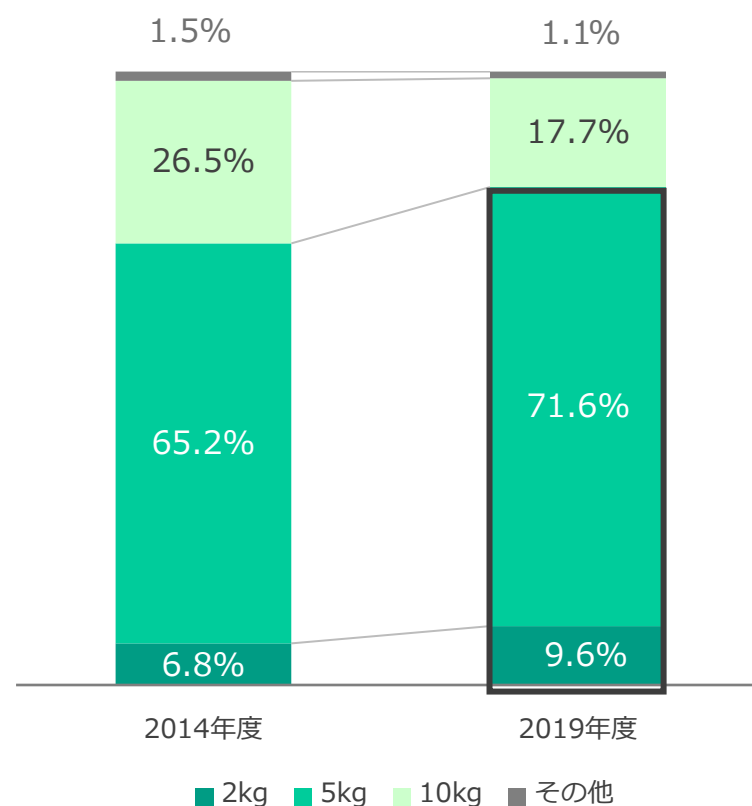
出所：米をめぐる関係資料（農林水産省）

核家族化の進展により2kg・5kgの包装袋の割合が増加

世帯数推移



包装容量別
販売割合



出所：厚生労働省「2019年民生基礎調査の概況」

出所：公益社団法人 米穀安定供給確保支援機構「POS情報」
※2019年全国計はデータの制約上、2019年1月、2月の平均値

米袋を中心とした食品及びその他の包装資材の企画・デザイン及び販売



調査／マーケティング

市場調査・データ分析による
時事に合ったトレンドを発掘



設計&デザイン

要望に合ったベストなプラン
& デザインをご提供



販売／納品

様々なパッケージや
ラベルの製品

- ✓ オリジナル米袋
- ✓ チャック付サイドガゼットロール
GZR
- ✓ 環境配慮型米袋

米穀用自動計量包装機を中心として計量包装機械の企画開発及び製造販売

	パーセル NMP-15H	インテリジェントパッカー ネオス DSR-110	スーパーインテリジェント パッカー SIP-110	ネクサス NX-180R
製品				
最大の特徴	計量機と包装機が一体化			
性能	±2gの計量精度と 11回/分（5kg計量時）の能力	1基の計量機で 10袋/分（5kg時）の包装能力	計量機2連搭載	3基の計量機で高速化を実現
操作性	ワンタッチの秤量変更と計量回数 のプリセット機能搭載	サイドグリップ方式で 確実に袋を保持	各機構部をユニット化し清掃・調整・メンテナンスが容易	
その他	小スペースで設置可能な コンパクトサイズ	省エネ性能で、エア消費量、 電力消費量を削減	バーコードの読み込みだけでフィルムサイズ、計量値、 シール設定、印字位置等を自動型替え可能	
標準価格※	240万円	1,550万円	2,450万円	4,150万円

※標準価格には、オプション等の価格は含まれておりません。

顧客ニーズに適した様々な包装機械・オプションなども企画・開発

異物除去機			集積包装機	
				
糠玉取機（とおせんぼう）			フレキシブルミニサッカー MS-5000H1・H2	フレキシブルオートサッカー FAS-2010BP
標準価格：235万円～350万円			標準価格：1,150万円	標準価格：3,750万円
給袋式自動計量包装機			チューブロール袋用包装機	
				
NRP-6	ジャスティーン NKC-01A	ジャスティーン NKR-01A	PLN-400	
標準価格： 2,450万円	標準価格： 700万円	標準価格： 480万円	標準価格：1,800万円	

物流におけるパッケージ現場の問題解決策の提案や海外の優れた製品・資材を輸入・販売

包む

大切なモノを優しく包む

- エアー包装材システム
- 紙緩衝材システム
- 発泡緩衝材システム

埋める

大切なモノの隙間を埋める

- エアー緩衝材システム
- 紙緩衝材システム
- 発泡緩衝材システム

封をする

大切なモノを運ぶため封をする

- 封かん・製函機
- ガムテープ繰出し機
- その他オプション

ワレモノ専用 包装材



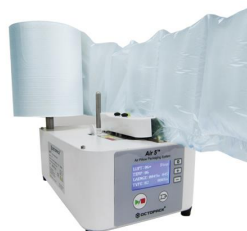
ワインボトルや薬品ボトル等、守りたい商品の形状にフィット

エアー包装材 システム



フィルムに空気（エアー）を注入して袋状の緩衝材を高速で製造するシステム

エアー緩衝材 システム



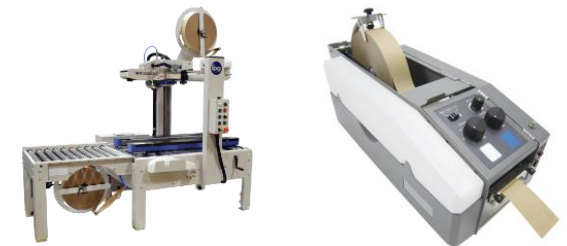
簡単操作でフィルムを縦置きにすることで最小のスペースを実現（環境にも優しいバイオフィルム）

紙緩衝材システム



脱プラの風潮に適した緩衝性能の高い紙パッドタイプの緩衝材システム

封かん・製函機



段ボールケースの上下面をテープ貼りする自動封かん機

マニュアル梱包の現場におけるガムテープ封かん作業効率システム

- 本資料は、のむら産業(株)の業績動向及び事業内容について、のむら産業(株)による現時点における予定、推定、見込又は予想に基づいた将来の展望についても言及しております。
- これらの将来の展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。様々な要因により、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- のむら産業(株)の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来の展望と異なる場合がございます。
- 本資料における将来の展望に関する表明は、本資料開示時点において利用可能な情報に基づいてのむら産業(株)によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

のむら産業株式会社 管理部

TEL : 042-497-6191

Web : <https://www.nomurasangyo.co.jp/>

Mail : ir@nomurasangyo.co.jp